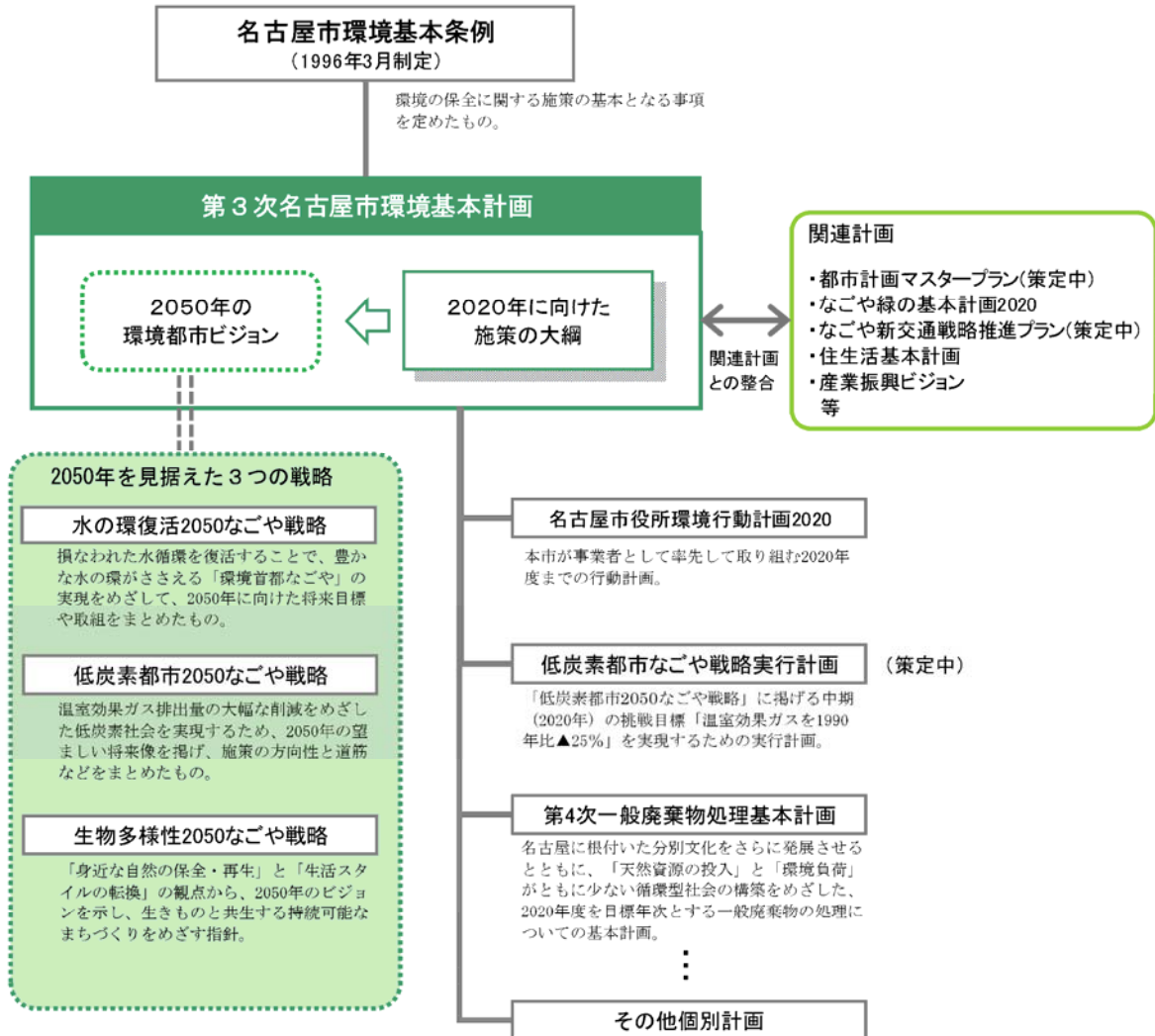


第3次名古屋市環境基本計画（素案）

第3次名古屋市環境基本計画（素案）（抜粋）
パブリックコメント（平成23年8月29日～9月30日）

第3次名古屋市環境基本計画の位置づけ



2050年の環境都市ビジョン

土・水・緑・風が復活し、あらゆる生命が輝くまち

2050年に向けて、なごやの自然、地形、気候、歴史が織りなす風土を活かし、すべての人が協働することによって、土・水・緑・風が復活して、人も生きものもあらゆる生命が輝くまち、日本のトップランナーとして地球環境保全に貢献するまち(環境首都なごや)をめざします。

2050年のイメージ図



2050年の姿

私たちが思い描く 2050 年のなごやは、すべての人が環境問題を自分のことと捉えて連携・行動し、資源が無駄なく循環し、まちじゅうに緑があふれ、きれいな水と空気が保たれている持続可能な都市です。

また、涼しい海風をまちに引きこむ風の道など自然の力を最大限活用するとともに、駅周辺に都市機能を集積し、自動車から公共交通中心の歩いて暮らせる生活スタイルが定着して、人々は自然エネルギーなどの再生可能エネルギーを活用して豊かで快適な暮らしを送っています。

さらに、環境を良くする技術の進展が新たな産業となり、雇用を生み出し、なごやの活力となっています。

伊勢湾流域圏では、上下流が互いに暮らしを支えあい、肥沃な大地と木曾三川などの豊かで清らかな水は、伊勢湾の海の幸を育てています。

4つの環境都市像

2050年の環境都市ビジョンをめざすためには、「健康安全都市」、「循環型都市」、「自然共生都市」、「低炭素都市」の4つの環境都市像の実現が必要です。

この4つの環境都市像の共通の取組としては、すべての人の主体的な協働、土・水・緑・風の復活などがあります。



1. 健康安全都市

大気と水環境などが良好な状態にあり、健康で安全、かつ快適な生活環境が保全されているまち

- ・市民の環境配慮が広がり、きれいな水と空気、快適な生活環境が保たれています。
- ・公害対策が適切に行われ、生活環境が安全で快適に保たれています。
- ・微小粒子状物質などの新たな環境汚染物質への対応が進んでいます。
- ・化学物質の適正管理、土壌汚染やアスベスト対策等が進み、健康で安全な生活環境が保たれています。

2. 循環型都市

廃棄物などの発生抑制や資源の循環利用、適正処理が促進され、天然資源の消費を抑制し、環境への負荷が最小限に抑えられているまち

- ・廃棄物などの発生抑制が進み、廃棄物からの資源・エネルギーの回収が徹底されています。
- ・生ごみ・せん定枝などが飼料・肥料・燃料等に利活用され、希少金属などの資源が循環利用されています。
- ・廃棄物の中間処理の高度化等により、適正処理が進むとともに、埋立量は極限まで削減されています。
- ・環境に配慮した製品設計が促進される「拡大生産者責任」が徹底されています。

3. 自然共生都市

生態系ネットワークが広がって、健全な水循環が回復し、豊かな水と土・緑、多様な生きものが身近に感じられるまち

- ・身近な緑や水辺をつないだ生態系ネットワークによって、風土にあった生きものの生息地が拡大し、緑や多様な生きものが身近に感じられます。
- ・雨水の地中浸透や、地表、植物などからの蒸発散など水循環が健全な状態に回復し、土・水・緑の復活と風の道による自然空調が活かされています。
- ・豊かな生態系が、きれいな水・大気形成や健康・安全・快適な生活の向上に寄与しています。
- ・伊勢湾流域圏の人的交流や地産地消が進み、流域全体が互いに支えあう豊かな生態系が保たれています。

4. 低炭素都市

自然エネルギーなどの利用が促進され、ライフスタイル・ビジネススタイルの省エネルギー化が進むなど、少ないエネルギー消費で快適な生活ができるまち

- ・温室効果ガスの発生量が大幅に削減されています。
- ・自然エネルギーなどの再生可能エネルギーや都市排熱などの未利用エネルギーの利用が促進されています。
- ・超省エネ機器が普及するなど、ライフスタイル・ビジネススタイルの省エネルギー化が進み、少ないエネルギーの使用で快適な生活が営まれています。
- ・公共交通を中心として歩いて暮らせる圏域に、商業・業務・住宅等の都市機能が適切に配置されています。

2020年目標「風土を活かし、ともに創る 環境首都なごや」を実現するために、なごやの風土の持つ可能性を活かした視点を踏まえ、「健康安全都市」「循環型都市」「自然共生都市」「低炭素都市」の4つの環境都市像の実現に向けた2020年までの取組方針などを示します。

■2020年までの施策の体系

